

京都

千年壽しんじょう
創業明治2年 京かまぼこ
淡木屋
中京区寺町三条上る(東側)
TEL 075-251-6711
http://www.ibarakiya.co.jp

5時以上
5時未満
のち
一時々々
数字(上)最高気温
(下)最低気温
丸囲みは降水確率
白叉キは50%以上
△は正午の風向き
△印なしは無風

27 17 ⑩	15日 (月)	26 16 ⑩	16日 (火)	25 15 ⑩
27 15 ⑩	15日 (月)	26 14 ⑩	16日 (火)	25 13 ⑩

難聴者の「聞こえ」手助け

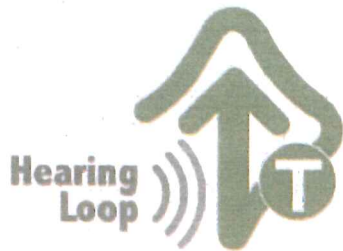
難聴者の「聞こえ」を手助けするヒアリンググループ(磁気誘導ループ)を存続させるか。会議室やコンサートホールなどに設置すると、補聴器で雑音のほとんどないクリアな音が聞こえる。京都市が昨年、11の区役所すべてに導入したほか、京都コンサートホールやロームシアター京都などでも既に設置済み。だが古くから市民生活に浸透している欧米などと比べると、日本ではまだまだ認知度が低く、普及のネックになっている。難聴者団体はヒアリンググループが広まれば町歩きが楽しくなる。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、おもてなしをうたう京都でこそ率先して認知度アップを」と訴えている。【榊原雅晴】



「おもてなし」京都で普及を

会議室やホールで補聴器の雑音排除

ヒアリンググループ



ヒアリンググループのサイン

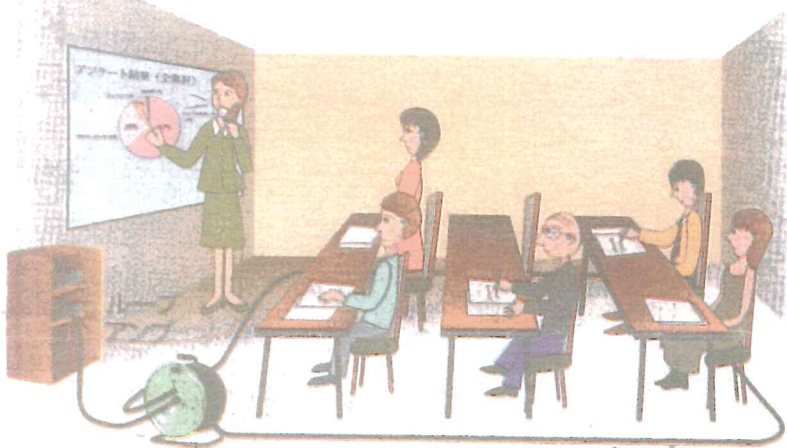
劇場や会議室、駅など周りが騒がしい場所で補聴器を使うと雑音が増幅され、肝心の音が聞き取れない。それをカバーする方法として注目が集まっている。

「おもてなし」京都で普及を

「おもてなし」京都で普及を



京都市では卓上型のヒアリンググループも導入されている。区役所の窓口などに置き、簡単に利用できる。京都市障害保健福祉推進室でヒアリンググループのイメージ図。ループアンテナの内側で磁気信号をキャッチし、講師の声がクリアに聞こえる。イラストは持ち運び型だが、劇場などでは床下にアンテナが埋め込まれる(ソナール提供)



ループアンテナ(リールドラム型)

ループアンテナ

「おもてなし」京都で普及を

「おもてなし」京都で普及を

「おもてなし」京都で普及を

「おもてなし」京都で普及を

「おもてなし」京都で普及を

や野球場の応援席にループアンテナを埋め込み、雑音に悩まされずアナウンスを聞ける施設が徐々に現れた。2009年には、裁判員制度導入を機に最高裁が全国60カ所の裁判所に一括導入。だが一般市民だけでなく、難聴者の間でも認知度が低いのが現状という。

高度難聴者で、6級の障害者手帳を持つNPO法人京都市中途失聴・難聴者協会副理事長、中川浩さん(66)は「私は3歳から補聴器を付けているが、大人になってヒアリンググループで相手の声がクリアに聞こえるのに驚いた。しかし補聴器を使っている人ですらそれを知らない人が多い」と残念がる。その理由として中川さんが挙げるのが「福祉

ある難聴者は約35万人。だが福祉のケアを十分に受けられない「谷間」にいる軽・中度の難聴者が約600万人いるというのだ。

ヒアリンググループの普及を訴えている中、難聴者の三好徳昌さん(73)は「京都市山科区は「耳が聞こえづらい」となると会話も減り、外出もおっくうになる。しかし講演会や音楽会を家族と一緒に楽しめるなら、出かけようという気持ちになる。また会社でも役員クラスの方で会議の音が聞こえず困っている人が多い。こういう多くの人びとの活動の幅を広げる」と、ループの可能性に期待している。

全国の裁判所や劇場、ホールなどに設置実績のある専門会社「ソナール」(東京都)は路線バスや鉄道での実証試験もしている。社長の佐野英一さん(68)は「古めかしいアナログの技術だが、費用もそれほどかからず、聞こえの支援では国際標準になっている。欧米では空港や駅の切符売場、タクシーなどにも設置され、難聴者もアナウンスが聞き取りやすくなっている」と指摘する。

東京オリンピック・パラリンピックを機に関心が増えたものの、先進国の中で日本は取り組みが遅れている。京都でも各国から多くの難聴者がやってきている。彼らについて「おもてなし」京都で普及を

「おもてなし」京都で普及を